

平成 25 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 26 年 1 月 21 日
静岡県病害虫防除所長

1 病害虫名 メロン退緑黄化病

病原ウイルス名 ウリ類退緑黄化ウイルス

Cucurbit chlorotic yellows virus (CCYV)

2 発生物種 メロン

3 発生経過および状況

- (1) 平成 25 年 12 月、県西部地区のメロンにおいて、下位葉を中心に退緑を呈する症状が確認された。静岡県農林技術研究所によるエライザ検定および RT-PCR 法による検査の結果、ウリ類退緑黄化ウイルス (Cucurbit chlorotic yellows virus : CCYV) による病害であることが判明した。
- (2) 本ウイルスは、平成 16 年に熊本県のメロンおよびキュウリで初めて確認され、平成 20 年に九州全 7 県、愛媛県、埼玉県、栃木県および群馬県で発生が報告された。本ウイルスによる病害はこれまで、上記 11 県のほかに、山口県、広島県、高知県、神奈川県、千葉県および茨城県で発生が報告されている。

4 病徴

本病は、定植 30 日後 (着果期) を中心に発病する。初期病徴は、成熟した葉の先端部分や葉柄に近い部分に退緑小斑点が生じる (写真 1)。小斑点は拡大しながら癒合し徐々に黄化する。さらに進展すると葉脈沿いに緑色が残る黄化葉 (写真 2) となる。この症状は展葉後 20~30 日後の葉に発症する。果実は肥大が悪くネットが粗くなり、糖度の低下や収量の減少といった被害が発生する。

5 ウイルスの特性および伝搬方法

本ウイルスはタバココナジラミ (写真 3、4) により媒介される。本虫が罹病植物を吸汁することによりウイルスを獲得し、一度ウイルスを獲得した個体は数時間から数日間ウイルスを伝搬することが確認されている。県内には遺伝子型の異なる 2 系統 (バイオタイプ Q およびバイオタイプ B) のタバココナジラミが生息しており、両系統ともに本ウイルスを媒介する。しかし、経卵伝染、土壌伝染および種子伝染はなく、管理作業による汁液伝染もしないとされている。

6 ウイルスの宿主範囲

自然感染が確認された作物はメロン、キュウリ、スイカである。接種試験では、その他のウリ科作物やアカザ科、キク科、ヒルガオ科、マメ科、ナス科、クワ科、シソ科、ナデシコ科など広範な植物に感染することが確認されている。

7 防除対策

- (1) 育苗中の感染を防ぎ無病苗を確保するため、防虫ネットを張った施設内での育苗、薬剤防除等の対策を実施する。メロン施設およびその周辺では、伝染源となる恐れがあるため他のウリ科植物を栽培しない。
- (2) 罹病した植物体はウイルスの伝染源となるため、ビニール袋等で密封しほ場外に持ち出して処分するか土中深くに埋め込む。
- (3) 媒介虫であるタバココナジラミに対して下記の防除を実施する。特に春期および秋期には発生が増加するため注意する。
 - ①黄色粘着トラップを設置し、定期的に観察する。本虫の誘殺が確認された場合は、

病虫害防除基準を参考に直ちに薬剤防除を実施する。

②本虫は薬剤抵抗性が発達しているので防除効果の高い薬剤を選択し、ローテーション散布を実施する。

③収穫残さは本虫の発生源となるため、栽培終了後は施設内を蒸しこみ、メロン株が完全に枯死したのを確認した後は場外へ持ち出す。

④本虫は雑草でも春から秋に多数生息するため、ほ場周辺の除草を徹底する。

8 その他

不明な点は、病虫害防除所、農林技術研究所、農林事務所、農協等に相談する。



写真1 メロン退緑黄化病の初期症状（葉裏）

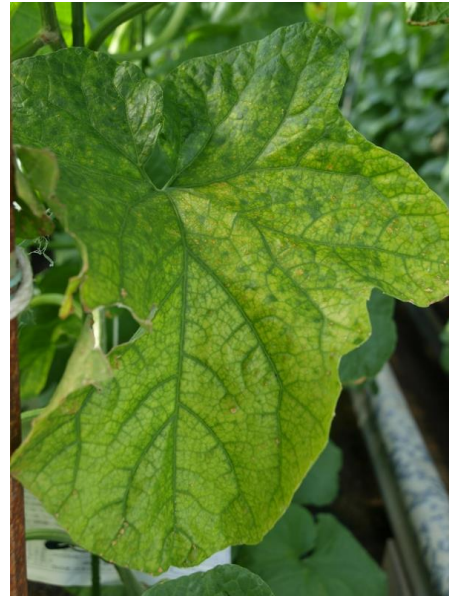
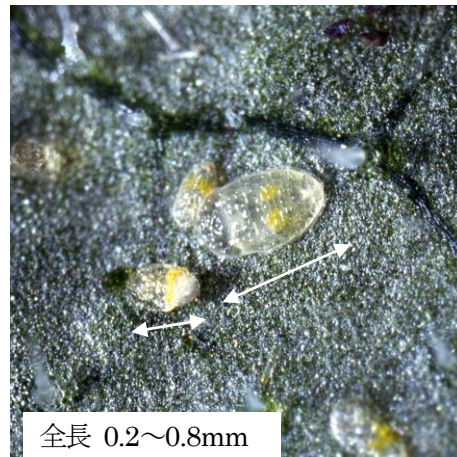


写真2 メロン退緑黄化病の症状



全長 約1mm

写真3 タバココナジラミ（成虫）



全長 0.2~0.8mm

写真4 タバココナジラミ（幼虫）

問い合わせ先： 静岡県病虫害防除所

TEL. 0538-36-1543